「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第９回

１．実施日
令和３年９月 25 日（土）１・２限

２．場所
３３１教室、３３２教室

３．対象
グローバル科１年生（６・７組）

４．講師
福知山公立大学地域経営学部　准教授　杉岡　秀紀　様

５．内容
次の２つを目的として、杉岡先生に講演をしていただく。大学人が取り組む研究を学ぶことで、学問を究める尊さを知り、自身の探究姿勢に生かせるようになる。研究とは社会貢献に繋がるものであることを理解する。講演は「大学の研究と社会貢献―私の探究（研究）紹介―」をテーマとしてパラレルキャリアやプロボノ研究をキーワードにお話しいただいた。

６．学び
学習者はシティズンシップ教育を話題とした様々な具体例から主権者教育について考えることになった。この話題は講演後半のテーマにつながっており、各個人が探究に取り組むにあたり、当事者意識と問う力の必要性を学んだ。

７．次回への課題
探求の目的や、自分たちの探究のテーマを社会的背景に関連させたり、社会的な意義づけができていないチームが少なくない。今回の講演で学んだ“圧倒的な当事者意識”を持たせて、探究内容を意味づけできるように支援する必要がある。

８．授業の振り返り
探究の意義や、本科目に取り組む態度、養いたい資質としてどのようなものが求められているかを再確認できる内容であった。２クラス対象に遠隔で講演を行った。本校の授業担当者によって、一方のクラスは教室前方のスクリーンに講師を投影し、スピーカーから音声を出力し、他方のクラスは学習者が所持する iPad から ZOOM のミーティングに参加し、イヤホンで音声を聞くような形で講演が始まった。時間が経つにつれ自分の iPad で ZOOM ミーティングに参加しているクラスの学習者はウトウト船を漕ぎだした。比較のため、教室前方のスクリーンとスピーカーを利用しているクラスを観察すると、学習者は真剣なまなざしで講演を聞いていた。ZOOM の利用の仕方と学習者の集中力になんらかの関係があるのかと考えたので、講演の途中ではあるものの、どちらのクラスもスクリーンとスピーカーで映像と音声をとる形に統一した。その結果、どちらの教室の生徒も集中して講演を聞くことができた。途中に環境が変わったことで、気分が変わったということも考えられるが、今後遠隔で講演を聞く際の教室の環境をデザインする際の配慮事項にしようと思う。